第 234 回浜田市教育委員会定例会議事録

日 時：令和 6 年 12 月 20 日（金） 14：30～15：50

場 所：浜田市立中央図書館 2 階多目的ホール

出席者：岡田教育長 杉野本委員 岡山委員 倉本委員 浅津委員

事務局 草刈部長 藤井課長（欠席） 山口課長 鳥居室長 松井課長
山本課長

書記：日ノ原係長 堀上主任主事

議事

1 教育長報告

2 議題

(1) 校区外通学に係る運用の変更について（資料 1）

3 部長・課長等報告事項

4 その他

(1) その他

1 教育長報告

岡田教育長

皆さん、今日は師走の本当にお忙しい中、お集まりいただき、ありがとうございます。気がつけば、あと 10 日余りで今年が終わってしまうということで、本当に 1 年早く感じている。

今年の 1 月 1 日、正月早々に、能登半島の地震があり、本当に大きな被害を受けた。その後も雨の被害などが続いており、本当に大変な思いで過ごされた方も多いと思っている。こうして、1 年を振り返ってみると早く感じるが、教育委員会としても、いろいろな政策を考えていく中で、やはりスピード感を持ってやらないと、時代の感覚に取り残されていくという思いも強くしているため、しっかり予測を立てて、これからも教育委員会のいろいろな事業に取り組んでいきたいと思っている。

それでは、資料に沿って活動報告をさせていただきます。

① 11 月 22 日（金）B&G 全国教育長会（東京：イイノホール&カンファレンスセンター）

11 月 22 日に、B&G の全国教育長会議が開催された。このテーマというのが、部活動の地域移行から地域展開へという内容であった。その先進事例として、新潟県の佐渡市が地域クラブ活

動というのを展開されている。学校は、もう土曜、日曜の部活動をすべてやめて、学校単位の枠を超えた交流であるとか、あるいは地域の方と楽しみながらスポーツ、文化に親しめる場の創設を目指されている。

先日もニュースで、神戸市ももう部活動は学校はやめるということも明言されているが、浜田市がどうするかというのは、本当に大きな課題のため、これからしっかり学校現場とも話を詰めていきたいと思っている。

② 11月29日（金）石見神楽伝承内容検討専門委員会提言書提出
対応（市長応接室）

11月29日に、石見神楽伝承内容検討専門委員会の提言書が市長に提出され、その対応に同席をした。検討専門委員会が、取りまとめられた内容というのは、石見神楽の伝承に向けて本当に幅広い視点で検討がなされていた。急がなければならない取組があると感じたところである。

提言書の内容、詳細については、後ほど担当課長から報告をさせていただきます。

③ 12月1日（日）ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念事業（京都市二条城）

12月1日に、ユネスコ無形文化遺産登録10周年記念事業が行われた。これは、石州和紙と岐阜県の本美濃紙、それと埼玉県の細川紙の3紙の手すき和紙が、10年前に、ユネスコの無形文化遺産に登録されているが、10周年を祝うお祝いの会が、京都市の国宝である、二条城の二の丸の御殿で開催され、それぞれの市から関係者が集まり、お祝いの会を開いた。

式典と記念講演のほかに、それぞれの市の手すき和紙の体験を、台所でも開催したところである。

④ 12月2日（月）12月議会開会（提案説明）

12月2日から12月議会が開会し、一般質問の教育委員会関係でいうと、石見神楽の伝承や文化行政の推進に関することについて、それから学校給食センターの運営体制や統合に関することについて、図書館の活用方針に関することについて、浜田市世界こども美術館へのスターバックスコーヒーの誘致に関することについて、そして、旧雲雀丘小学校跡地の活用に関することについてなどがあつた。

詳細については、後ほど、教育部長から報告をさせていただきます。

きたいと思う。

⑤ 12月10日（火）総務文教委員会

12月10日に総務文教委員会があったが、ここには、健康増進センターすまいるという松原の体育館施設があるが、この施設に冷暖房機器の設置をして欲しいという陳情が議会に対してあり、議会としては、同類のそういう体育館施設などとの優先順位を考えて整備を検討してもらいたいという意見を付して趣旨の採択をされたところである。

あと、その他では教育委員会からは先ほどの石見神楽の伝承内容検討専門委員会の提言書の報告をさせていただいた。

⑥ 12月13日（金）人事異動に係る校長面談（教育委員会）

12月13日から、来年度の教職員の人事異動に係る校長ヒアリングがスタートしている。3月の内示に向けて、教育事務所と相談しながら、学校の現状を踏まえた異動について、しっかり考えていきたいと思っている。

以上が、このひと月の活動報告になるが、ご質問等があればお受けしたいと思う。

いかがか。

特になし。

各委員

2 議題

(1) 校区外通学に係る運用の変更について（資料1）

山口課長

資料1をご覧いただきたい。校区外通学の運用の変更について、本日お諮りさせていただきたいと思う。

実は、松原小学校のPTAから、11月28日に要望書の提出があった。近年の松原小学校の校区外通学の状況等を見て、現在、第二中学校校区の外ノ浦町、松原町、殿町の3地区の松原小学校の児童の保護者から、中学校へ上がる時に、第一中学校への校区外通学申請が出た場合、原則許可するというものとする。適用は、次年度、令和8年度入学者分から適用したいという内容である。次に、要望の経過だが、11月28日に、PTA会長と議員が1人随行され、保護者アンケートをとられ、82名から回答があった。児童109名のうちご兄弟がおられるため、ほぼ100%に近い回答が得られたところである。

そういった内容を踏まえて、特にこの3地区の外ノ浦町、松原町、殿町の保護者から、学校が第一中学校、第二中学校に分かれ

るところについて、満足していないところである。

実際、毎年この3地区については、中学校へ上がる段階で保護者、児童も悩みがあるところ、そういった内容の要望書をいただいた。本来、校区まで見直して欲しいというものなのかということもあるが、教育委員会で、本人の意思通り選択できる体制をお願いしたいという内容であった。

3番の現状の卒業生の進学状況だが、特にこの3地区に関しては、全学年の3分の1ぐらいは、この3町内から松原小学校へ通っているが、特に最近、数名程度のみ本来の第二中学校へ進学している状況である。令和5年度卒業生は、全員、第一中学校へ行ったという経過がある。

下段に、6年生から1年生の在校生の状況が記載されているが、来年度中学校に上がる小学6年生は、今この3町内に6名在籍している。そのうちもうすでに、4名が第一中学校への校区外申請をして、教育委員会としても許可しているところである。実質6名中2名が、第二中学校へ進学というかたちになる。

最後に、この3町内から各第一中学校、第二中学校への距離だが、実際、第一中学校の方が距離的に近いところである。記載のとおり、高低差は全く計算していないが、距離的にも短い。

毎年度、教育委員会に、この3地区の保護者から、早めに申請をいただいているが、どうしても行きたい部活があるわけではないが、どうにか同じ同級生と行きたいという気持ちがあっても今の現行の基準では、一緒に行きたいからということでは、許可できないところがあった。そういったところを解消するために、今回、ご提案させてもらい、令和8年度入学者分からは、この3地区については、申請が出た段階で教育的配慮というかたちになるかと思うが、原則許可という取り扱いにさせていただきたいと思う。

以上、よろしく願います。

岡田教育長

ただいま事務局から説明があったが、本来の小学校、中学校の校区というのは、条例で定められている。ただ、この松原小学校を卒業した児童は、町内でいうと第一中学校へ進学する町内と第二中学校へ進学する町内があり、今、小中一貫の事業なども進めているが、そこの一貫性がなかなか取りにくいという様なことがある。実際の小中一貫については、これらの地区は、松原小学校についても全部一中校区に含めるという様な運用をしている状況

もある。そうした中で、今日の議題に挙げた趣旨というのは、校区を条例上変えるのではないが、この3町内についての校区外に進学する運用の見直しをしたらどうかということでの提案であった。

浅津委員

ご質問、意見等あれば受けたいと思うが、委員方いかがか。
選択制というのは、この先も学区の見直しをせずに、当面続けるという選択制をひとまず続けていくということか。選択制となると子どもたちがどちらに行くという、やり取りが毎年毎年行われるのだろうと思う。そのうち、校区を見直す等、そういうことまで見据えておられるのか。

山口課長

制度上、選択制という形式はとらない。あくまでも校区は、きちっと定めさせてもらい、その上で、例外的に校区外申請という制度の中で、実質選択性になるかと思うが、配慮するというかたちになる。

現行、今、松原小学校区について、殿町5町内については、マンションが2棟建っており、当時、地元からの要望を踏まえて、校区外通学、教育的配慮というかたちで、原井小学校へと認めているという過去の事例もあるため、あくまでも制度上の校区は、この3町内については、第二中学校という規定である。

ただ、運用上、校区外申請が出た場合は、第一中学校には行けるという取扱いをさせていただきたいと思う。

浅津委員

承知した。

岡田教育長

その他、いかがか。

杉野本委員

これまでの校区外通学を許可していた主な理由としては、どのようなことがあったか。

山口課長

基準があるため、お配りする。

今、現在の校区外通学許可基準については、大体11項目ある。1番多いのが、引っ越し等があれば、最終学年は中学校、小学校それぞれ学年度末まで在籍し、他の学年については、その学期末まで在籍というところである。あとは、最終的に距離の問題になる。特に、旧浜田市内の学校は、距離で処理をして、保護者が、グーグルマップ等で距離を測り、近いのでこちらに行かせて欲しいというかたちで、1番は距離である。あとは、中学校に上がる場合は部活が多い。学校により男女でやりたい種目が変わっているため、当然家庭の協力もあってだが、できる場所に通うというところがある。

岡田教育長

小学校低学年においては、放課後保育というかたちで、本来校区ではないところに家族が居住され、放課後預かりができるところで、放課後保育というかたちで申請がある。

今、説明があった様に、著しく距離が違う場合に、近いところに行かせて欲しいという意見もあるが、このそれぞれの該当 3 町から各中学校の距離は、資料に書いてあるが、1 km も本当は違わないため、これを著しいととるかどうかということはある。

それから、部活動が、例えば第二中学校にはなくて第一中学校にある場合には、そういう理由で認めていることもあるが、同じ部活動があってもどうしても第一中学校に行きたいという様なことも中にはあった。

いろいろなケースがあって、それは個々に相談をしながら、極力この基準に沿うかたちでお願いしている。そうすると、住居を変えてでも、学校を変わりたいということも、まれに出てきたりするが、その様なご家庭や、児童生徒に負担をかけているかもしれないやり方がどうなのかということもあり、今回、このエリアの運用を見直すかどうかという提案をさせていただいている。

その他、いかがか。

杉野本委員

浜田市内で、校区外通学について、この 3 町の許可が出た場合に似た様なケースが想定される小学校があるか。

山口課長

まず中学校進学にあたり、同じ小学校から別々の中学校になる学校がもう 1 校ある。原井小学校である。紺屋町については、中学校区は、第一中学校になるため、そこに居住の方はどうしても原井小学校の同級生と行きたいということで、過去には申請があったが、現在は、児童数が減っているためそういったことはない。あと、小学校は、三階小学校について、朝日町は本来、松原小校区だが、近いところに学校があるため、ほとんどの保護者が石見小学校、松原小学校、三階小学校の 3 地区に分かれている。三階小学校もちょうど、地球堂がある両サイドの朝日町 3、4 町内は、松原小学校に行かれる家庭も多いが、あとは距離が断然学校に近い。そういった状況である。

岡田教育長

あとは、熱田町も少しあるのではないか。

山口課長

過去には、熱田町の 1-3 の東福井団地が、キヌヤから住宅展示場があり、その上の地区は、本来、長浜小学校区だが、地域からの要望も踏まえて、校区外を希望したら、雲雀丘小学校に行かせたいということで、そういった運用をしたことがある。今は子

	どもたちが減り、雲雀丘小学校がなくなったため、そういった事案は、実質なくなったという状況であるが、過去にはそういった事例があった。
岡田教育長	その他、ご質問等あるか。
杉野本委員	今回は、この松原小学校についてということか。
岡田教育長	今回、要望が実際に PTA 会長名で、すべてのヒアリング調査をされた結果として出ているため、そこはきちんと受けとめて、まずはこの校区の見直しをしたということである。
杉野本委員	今後、そういった動きが出てくる可能性ももしかしたらあるということか。
岡田教育長	地域のあるいは保護者の方の声として、個人ではないかたちで上がってきた時は、少し検討する余地が出てくるかと思う。
杉野本委員	承知した。
岡田教育長	その他よろしいか。
	それでは、事務局からの提案のとおり、第二中学校に本来進むべき町内である殿町、松原町、外ノ浦町については、第一中学校に進学することも、申請によって応じるというかたちにしたいと思うが、よろしいか。
	この運用を来年度入学からにするのか、令和 8 年度からにするのか、そのあたりを少し補足していただきたい。
山口課長	資料にも、概要ということで記載させてもらっているが、令和 7 年度末卒業で、令和 8 年度中学校入学分から適用させていただければと思っている。
岡田教育長	それはすでにもう、進学先に向けてある程度決めておられるということ、よろしいか。
山口課長	そうである。
	今現在の 5 年生から、きちっと以下、周知させてもらい、適用させていただきたいと思う。
岡田教育長	では、十分な周知期間を見て、令和 8 年度から適用したいということ、特にご意見がないということ、了解していただいたということ、よろしいか。
各委員	全会一致で承認
岡田教育長	ありがとうございました。

3 部長・課長等報告事項

草刈部長 | 令和 6 年度 一般会計補正予算（第 5 号）説明資料（資料 2-1）

令和6年度 一般会計補正予算（第6号）説明資料（資料2-2）
資料2-1と資料2-2とあるが、どちらも12月議会の補正予算である。

まず2-1から説明する。令和6年度一般会計補正予算第5号だが、こちらが通常提案分である。編成概要にある様に、9月編成後にある新たに生じた経費と現時点での事業費の確定等に伴い、不用額が見込まれる事業等について調整を行うものである。補正額は、全体で199,122千円の減額で、補正後の予算が40,340,773千円ということになる。

教育委員会に関連するものは、裏面にあるが、債務負担行為補正ということで、追加の上段の方に、指導書及び教師用教科書購入事業（中学校費）という令和7年度の事業であるが、こちらの単価が上がり、限度額に記載してあるが、23,327千円というのが現在の予定であるが、前回までのところで2,000万円を超えてなかったため大丈夫であったが、2,000万円を超えるという、浜田市議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により、具体的には、予定価格2000万円以上の財産の取得が動産の買入れにあたる。教科書指導書が本来の趣旨は違うかもしれないが、一応今の区分でいうとこれに該当するため、今の価格でいうと、2,000万円を超えるということで、一応債務負担行為を設定して、3月議会で議決を得るという様なかたちで、議会の議決を経て、令和7年の4月に実際に購入という様なかたちにするものがこちらの部分である。追加になっているのは、当初予算のところでは2,000万円を超える予定ではなかったということが原因である。

表の2つ下の変更のところの上から4つ目、石中央文化ホール管理運営費から最後の三隅B&G海洋センターまでは、債務負担行為の変更ということで、指定管理者と仮協定の締結を11月21日にすべて行っている。相手は、教育文化振興事業団と文化協会である。その金額が確定したため、文言で指定管理に要する額としていたところ、実際の額のところ、金額を入れる様なかたちの

変更である。12月議会に、指定管理の指定議決が出るため、それに合わせて、こちらの債務負担行為も変更するということになる。評決後に、仮協定が本協定に移るという流れになっている。

る。その関係の変更ということである。

一般会計補正予算（第5号）については、以上である。

続いて、資料2-2で、一般会計補正予算（第6号）ということで、こちらは追加提案となっている。これは、人事院勧告及び島根県人事委員会勧告並びに人事異動等に基づく人件費の調整を図るということで、給与改定に伴うものがこちらになる。すべての予算のところは、給与改定と人事異動に関するものということになる。

2の予算規模のところだが、補正額が245,136千円の追加で、補正後の予算額は、40,585,909千円ということになる。その下の補正事項のところ、教育委員会に関係するのが、黒い点の1番目の職員の給与改定及び人事異動分、2番目の会計年度任用職員の給与改定分、4番目の特別職の職員の給与改定分というところが該当になる。

ページをめくっていただき、下の10番が教育費であるが、全体では、74,688千円の追加ということになる。

個別の事業のところは、31事業あり、内容については、先ほどの案件である。特別職分が1事業、職員分の給与改定が3事業、会計年度任用職員分が27事業、番号でいうと118番から最後の148番までのところの内容である。

一般会計補正予算（第6号）については、以上である。

予算について、ご質問等あるか。

特になし。

岡田教育長
各委員

草刈部長

個人一般質問 通告一覧（令和6年12月浜田市議会定例会議）
（資料3-1）

答弁準備原稿 個人一般質問用（資料3-2）

資料の3-1だが、12月議会で、委員会代表質問と個人一般質問が、12月3日から7日までの4日間あるが、委員会代表質問の方は、総務文教委員会はなかったため、個人一般質問だけになる。個人一般質問全体では、19名216項目、教育委員会関係は8名、27項目ということになる。

続いて、資料3-2をご覧いただきたい。答弁は、下に記載があるため、見ておられると思う。質問の方で、これだけでは分かりにくい補足がある部分だけ説明させていただく。最初の芦谷議員の石見神楽伝承内容検討事業のこれからということ

で、伝承をどう生かし、市民や観光客に見てもらい、地域振興につなげるかという様な提言を受けての話である。裏面にもう一問あるが、石見神楽を鑑賞する拠点づくりが必要という議員の前提のもとに、その拠点づくりをどの様に進めていくかというのが、②の質問になる。

続いて、6の芦谷議員の学校給食センターの運営体制についてということで、学校給食費の無償化に向けた取組、考え方と検討状況についてということである。国の無償化の方向性を具体的に探るといふ様なことを以前答弁しているが、その現状を問われている。

裏面にいき、学校給食センター職員の給与水準についてということであるが、具体的には、公益財団法人浜田市学校給食会と三隅地域の3校は直営で行っているが、そちらと教育文化振興事業団との給与水準を比較してどうかという質問である。

続いて、柳楽議員のGIGAスクール端末の更新である。1点目は、GIGAスクールの端末の更新の流れがどういう流れかということでの質問である。

裏面の②の方だが、こちらは処分についてということである。こちらは、文部科学省、経済産業省、環境省の三省合同通知が出ており、端末の適正な処分を行う旨の通知だが、再使用や再資源化の促しをする様にといふ通知である。その通知があるという前提で、端末の処分についてという質問になっている。

続いて、川神議員だが、神楽の提言書を踏まえた未来に向けた石見神楽振興戦略ということである。未来の石見神楽の何を残すかという保存・伝承のあり方に特化した専門検討委員会からの提言書について、策定の経過、過程も含めてどう受けとめるかという様な内容で、これに対しては、市長と裏面が教育長とそれぞれの答弁という様なことになっている。

次の9ページのところだが、石見神楽の資料の保存や石見神楽が学べる拠点施設を必要としているという提言書をどう具現化するのかというのが、こちらの質問の内容となっている。

続いて、10ページだが、石見神楽が多くの方から愛され大事にされる素地を作っていくことが最も大切だという議員の認識前提の基に、石見神楽振興支援組織や石見神楽保存振興基本条例策定等に対する所見を聞いている。

次が図書館の関係だが、全国的に書店が減少しているという前提を踏まえて、図書館を活用した文化のかおるまちづくりとして、紙の方に触れることの重要性を質問している。

その裏面のところが続いての質問だが、書店の減少による書籍離れは、図書館がカバーすべきという議員の前提に基づいて、目指すべき図書館像についてどうかというのがこちらの②の質問である。

続いては、今後の学校給食センター運営の方向性ということで、学校給食センター統合計画の今後の展望ということだが、なぜ、方針が決定されている学校給食センター統合計画が実行されないのかという考えに基づいて、この学校給食センターの総合計画の今後の展望を聞いているというのはこの①のところである。

続いて、(2)-①だが、急激な少子化に伴い、学校給食施設は縮小せざるを得ないという議員の前提で、学校給食と福祉、それから学校給食とコミュニティ支援などによって、地域課題の解決のために学校給食センターを活用できないかという観点の基に、高齢者配食サービス等の併設はどうかというのが、この3-(2)の①の質問である。

続いては、3-(3)-①だが、学校給食費の無償化に対する評価である。全国的に30%にあたる547自治体で、小中学校の学校給食費の無償化が実施されているという現状を受けて、学校給食費の無償化の制度導入をどう考えるかというのがこちらの質問である。

続いて、大谷議員に移り、文化行政についてということだが、石見神楽などの調査研究体制を整える様な人材が必要だという前提の基に、学芸員の職員数とその専門分野を聞いているのが3-(1)-①である。

続いて、②の方だが、石見神楽の調査体制を整えることにより歴史文化の振興を図るべきだと考えるがどうかということである。これは、市長答弁になっている。

大谷議員の3-(2)-①だが、これは東京都練馬区の石神井公園ふるさと文化館を視察し、こちらのところが、伝統文化を生かして新たな地域文化を創造して、観光振興にも寄与する博物館機能を利用する生涯学習施設であるという議員の認識の基にあった質問で、浜田郷土資料館の建替えについて、博物館機能

を有する生涯学習施設と考えるのかということをお問われている。

続いて、②の方が、この複合施設に常設ギャラリーが必要だ、検討すべきではないかという前提の基で、そういう常設ギャラリーの事業を検討するのかどうかということである。

続いて、牛尾議員だが、世界こども美術館にスターバックス誘致についてということで、こちらの方は10月の浜田市民一日議会で提案された内容になっている。世界こども美術館の存続と収益改善に繋がるという考えで、スターバックスがあると入館者が増えるという様なことである。理由として、若い人の支持があるということ、スターバックスの人材教育は素晴らしい、誘致の可能性がある。これは、人口5万人規模の都市にも進出の例があるということで、将来に大きく貢献するものということの考えの基に、この一日議会の内容、誘致について、問うというのが、①の内容である。

②は、また変わり、郷土資料館の複合化について、現状どう考えるかという質問である。

続いて、岡本議員である。1-(1)-①は、まず、閉校後の校舎等の施設の利用で、閉校施設の利活用状況についてということである。雲雀丘小学校の利用をできなかったケースがあったということで、質問された。

続いて、②だが、旧雲雀丘小学校校舎の地域利用についてということで、これは先ほどの質問に基づいてその次の段階での質問になっている。

続いて、③だが、これは、少し雲雀丘小学校からは離れ、勤労青少年ホームに代わる音楽等に利用できる施設についてという質問である。利用しているものの既得権というのはどうなんだという様なこともあったが、そういう様なかたちでの質問であった。

串崎議員だが、これは農業振興の関連で生きもの調査ということで、7月に弥栄の水田で西日本農研機構の研究員が、現地指導をして、その機構のマニュアルに沿って実施をされた内容だった様だが、弥栄小学校の児童と地域の生産者による田んぼの生きもの調査を実施しているということを受けて、この弥栄小学校以外で、一般的に学校における水田や河川での生きもの調査、実施の状況はどうかというのが、この①の質問である。

最後に佐々木議員である。市民の生活支援、ひきこもり支援についてということだが、こちらは、野洲市の事例を挙げられて、滋賀県と野洲市の方で、児童生徒の健全育成に係る連携協定を締結されて、高校生の不登校の情報を市でもらい、それを高校生の支援に生かしているということで、浜田市でも不登校対策として検討すべきではないかという前提の基に、高校生の不登校対策についてという⑤の質問である。

続いて、3-(1)-①だが、学校給食の負担軽減ということで、国の調査の結果や今後の動向について学校給食費の無償化をどう考えるかということで、市長答弁の大きな話があり、詳細については、裏面に部長答弁がある。

続いて、②の方の質問は、浜田市の学校給食費の無償化や負担軽減の取組について聞かれたものである。

これらが、今回の一般質問の内容で、質問内容の補足を中心に説明させていただいた。

以上である。

議会ごとに、教育委員会に対する質問は本当に多いが、今、部長から説明があった様に、議員の質問の背景なども少し補足させてもらって、ご覧いただければ、大体のイメージ、背景が分かってくるのではないかと思います。

ただいまの報告に関して、何かご質問があればお願いします。よろしいか。

特になし。

行事等予定表（資料4）

資料4をご覧ください、12月20日から1月31日までの行事等予定表である。教育委員方にご出席いただきたいのが、1月3日金曜日の令和7年浜田市二十歳の集い、1月27日月曜日の第235回教育委員会定例会となる。また、こちらに掲載できていないが、以前、日程調整させていただき、1月24日に総合教育会議を開催する準備を進めているため、またよろしく願います。

第四中学校解体に伴う旧学校物品譲渡会について（資料5）

資料5をご覧ください、第四中学校解体に伴う旧学校物品譲渡会の開催報告である。11月30日土曜日に行った。当日は、

岡田教育長

各委員

藤井課長

(代理：日ノ原係長)

岡田教育長
各委員

鳥居室長

103名の来場者がおられ、棚や消耗品というところで、棚関係等が、約200点譲渡された。それ以外にも消耗品ということで、下の写真になるが、体育館の中にブルーシートを敷いて、ご自由にお取りくださいというかたちで行った。写真は、終盤だが、こちらもだいぶなくなった。

報告は以上である。

資料4、資料5に関してご質問はあるか。

特になし。

第8回（12月）市校長会資料（資料6）

資料6をご覧いただきたい。校長会で、校長会長と副会長から、AIドリルのことについて、詳しく説明して欲しいという要望があったため、それを受けてAIドリルとはどういうものかということについて、示したものである。現在は、教科を絞って行っているが、今後は教科がセットになっているものを導入したいと思っている。これは、業者Aというリーフレットからピックアップしたものである。小学校、中学校、各教科が入っているため、これを見ていただければどういう教科が入っているのかということをご理解いただけたらと思う。後ほど触れるが、AIドリルありというのは、標準型のドリルにプラスしてAIドリルが入っているということになる。中学校の英語のみは、AIドリルはないとこの業者ではなっている。

先ほど触れた、AIドリルの概要についてだが、共通ドリルは、理解度によらず、どの児童生徒へも同じ問題が出されるというドリルである。紙で解いても、デジタルで解いても、同じ様なものだということをご理解いただきたい。AIドリルは、理解度によって、出される問題が違ってくる。詳細については、後ほど具体的な問題が出てくるため、そちらの方で触れさせていただきたい。

1枚めくっていただき、AIドリルの活用の効果ということで、(1)が、児童生徒は学力向上ということで、1番目の丸が、個々に応じた指導が可能となるということ、それから2番目の丸が、中位層はもとより、上位層、下位層のレベルアップにつながるということ、3番目の丸が、教師の指示により一斉に同じものを取り組むこともできるということ、それから学年や小・中学校の校種変更も自由にできるということ、選択をしながら、ど

ら、最終的に 4 番目の丸だが、「個別最適な学び」への取組になるということで見込まれる。

(2) 教員については、働き方改革が主な効果になる。プリント準備、問題作成や印刷、それから採点の必要がないため負担軽減に繋がるということ。

一斉に問題を出したいときには、教師用の端末に一斉送信してできるため、全く問題はないということ、それから、取組状況をいちいち入力したり、グラフ化したりということや、ドリルの端末で勝手にしてくれるため、一瞬でいろいろなことが把握できるということが、働き方改革に繋がるであろうと思う。教育委員会としては、タブレット端末の活用促進、それから不登校対応に繋がるということ、それから 3 番目の丸だが、いわゆる CBT コンピューター型全国の学力学習状況調査への対応になる。来年度は、中学校の理科が CBT になり、その次は英語が令和 9 年度から小学校も中学校もすべて端末型コンピューター型ということになっている。

今、そこに図で示してあるのが、文部科学省が、来年度の実施に向かって、各中学校の生徒に予備問題として、この問題を解かせてみなさい、操作がどういふ操作が必要なのかということに慣れさせなさいということを出された問題の一場面である。一番下に四角で囲ってあるが、回答方式については、大体この理科の問題でこういうものがあつたということだが、元素記号は、大文字、小文字があり、それを選択して入力する力が必要になる。動画を見てその現象について自分なりに捉えて説明する、これはキーボード入力が必要であるということ、それから選択肢があるため、枠の所に向かって、表示されているものを持って行ったり、枠にはめ込むのがドロップというものだが、そういったことが必要になる。また、グラフ上の適切な場所に点を振る能力が必要になってくるため、問題に慣れてこういう操作に慣れていかないと、なかなか難しいこともあるということも 1 つの対応になるということの根拠である。

それから、3 ページ目のところだが、先ほど詳しく説明しますというふうに申し上げたが、これも先ほどお示しした業者 A のものである。まず、子どもたちは AI ドリルの場合は単元を選ぶ。小問がいくつかあるため、その中の問題を選んでいく。

これは小学校の例だが、線対称の問題になっており、線対称の単元を選んだらこの問題が出てくる。具体的な問題は、辺 BA に対応する辺はどれかというふうに聞いているが、イメージしにくい場合は、右上の方に確認ボタンというのがある、そこを押すと、線対称とはどういうことだったかというのが出てくるようになる。必要なければ、問題を解いていいが、問題を解いて答え合わせをする。正解の場合は、次の小問題へ進む。間違えた場合、誤答の場合が下段に書いてあるが、フォロー問題というのが左側に図で出ている部分である。先ほどの最初の問題は、辺 BA に対応する辺はどれかという問題で間違えると、次のフォロー問題では、点 C に対応する点はどれか、辺ではなく、何と何ではなくピンポイントでどの点に対応するのかというふうに聞いてくる。これで正解をすれば、次の類題へ進む。1つの頂点を指定することができたから、頂点と頂点を結んだ辺が、次は解けるだろうということを出される。類題として、直線 CX と等しい長さの直線はどれかというのが出る。それが対応する辺になるが、それに正解すると、次の問題へというふうにどんどん進んでいく。間違えた場合には、点 C に対応する点はどれかで間違えた場合には、点 C というのがもう一度明らかにできる様な解説が出てきたり、問題が出てきたりする。というふうにして、進んでいくのが AI ドリルのイメージである。最終的にいろいろな問題をやって結果を見ていき、自分で確認をしていくという様なことになっていく。

次に、業者 A のドリルの内容ということだが、ドリルの中に、何が入っているかという、先ほど説明した一番上の丸である。共通ドリルと AI ドリルというこの 2 種類が入っている。その他に、応用発展ドリル集として、各教科等における思考力判断力表現力を養うドリルが入っている。それから、漢字ドリルが入っている。算数・数学に特化した学び直しドリルが入っている。課題ドリルは、先生が選んで、子どもたちに配信するドリルになる。これは AI ドリルと共通ドリルの 2 種類が当然入っており、先生の自作も可能である。これがセットとしてとりあえず入っている。別途経費は必要になるが、以下のような活用も可能になる。これは業者 A を例にしているが、それ以外の業者もほとんどこういう機能を入れている。先ほどお伝えした CBT の関係だが、CBT 単元テストは、要するに先生が評価し

なくても済む。テストを作って評価するというをしなくても、それに対応できることになる。それから、達人テストという話が少し島根県教育委員会の方から出ているが、それに代わる様な機能である。認知特性を診断して、それぞれの子どもの特性の不十分なところをトレーニングする学習ツール、それが入っており、この2種類は、別途経費はかかるが、こういうものもある。

この説明を校長会、教頭会でさせていただき、校長先生方教頭先生方は、非常に関心を持っておられましたし、CBTの単元テスト辺りは、考えて欲しいという様な声もあった。特に複式学級は、2学年分のテストを買わなくてはいけないというようなこともあったりして、そうすると非常に保護者負担等々の面からみても助かるという様なことをおっしゃっていた。

これが最終決定すれば、利用率、活用率をどんどん上げるために、それなりのお願いは各学校へしていかななくてはいけないでしょうし、それから先ほどいった、共通ドリル、AIドリルが入っているセットもの以外に、例えばCBT単元テストも入れて欲しいという要望も校長会で聞きながら考えていかなければいけないというふうに思っている。

資料6については、以上である。

岡田教育長

資料6についてご質問があれば伺う。

いかがか。

倉本委員

これは、経費としてどれぐらいかかるか。保護者からも徴収するのか。

鳥居室長

現段階では、保護者負担は考えていない。600万円少々、他の部分を入れていくと700万円、それ以上と金額が増えていくが、そういう様な状況である。

今後、導入になった場合はやっていきながら、先ほどいったCBTの単元テストなどテストを買わなくてよくなるため、今まで保護者が負担したドリルを買わなくてもいいとなれば、その辺りのところを少し保護者から一部徴収させていただくとか、これがどんどんうまく進んでいけば、紙ドリルがあまり必要なくなってくるとなれば、その辺りの保護者負担というのは、考えていきたい。これは、今後の研究課題だろうと考えている。

倉本委員

経費の家庭への負担がないというところで、少し安心した。

岡田教育長
各委員
岡田教育長

できればその CBT の機能をつけてあげて欲しい。最後のところの特性に応じて学習するツールというところも一緒に入っていると、いいなという気持ちを持った。

その他よろしいか。

特になし。

来年度に向けて、学力向上の 1 つの大きな取組になる様に、予算を要求していきたいと思っている。

鳥居室長

令和 6 年度 第 11 回浜田市図書館を使った調べる学習コンクールについて (資料 7)

先般、調べる学習コンクールの表彰式を行ったため、それについての報告である。裏面の方に、具体的にどういう子どもたちが優秀賞になったのかということは示しているが、まず表面の表をご覧いただきたい。応募作品数ということで、具体的な数字を入れているが、親切じゃなくて申し訳なかった。前年度との比較等を入れると分かりやすかったと思う。小学校の中学年については、昨年度より作品数等々、すべての項目でマイナスになっている。それ以外は、小学校の低学年の自由部門、これがマイナスになっている。それ以外は、プラスになっている。一部学年のところや一部部門で、ちょっと振るわなかったところがあるが全般的に見ると、応募数等々が増えているという様な状況である。

1 番下の (3) 作品の講評というところで、今回の特色は、1 番上に出ている、探求的にして調べている作品が増えてきたというところが 1 番の特色だと思う。調べる学習に関する研修会を行っているが、そこでも研修の主たるテーマは、探求的な活動を調べる学習でどの様に行わせるのかということで、研修を開いている。調べる学習の応援講座は、子どもが来て、どういうふうにしていくのかという様なことを一緒に考えていくが、そこでも担当は、探求のところを頭に入れながら助言を進めていた。したがって、その辺のところ、探求的な作品が増えてきたというところに繋がったと思っている。

また、裏面の子どもたちのどんなところを調べたのかということについては、ご覧いただければと思う。

以上である。

岡田教育長

ただいまの件について、ご質問等あるか。

各委員

特になし。

松井課長

JFA こころのプロジェクト「夢の教室」の開催について（資料 8）

スポーツ振興課から、3点続けて説明報告をさせていただく。

まず、資料 8 をご覧いただき、JFA こころのプロジェクト「夢の教室」の開催についてである。JFA（公益財団法人日本サッカー協会）が、子どもの心身の健全な成長を目的として開催している「夢の教室」について実施したため、報告する。この事業は、浜田市では平成 22 年度から取り組んでおり、原則小学 5 年生を対象に、市内の小学校を順に実施させていただいたという様な内容である。

今年度は、11 月 20 日の水曜日に開催をした。対象となった小学校及び参加児童数だが、午前中は、今福小学校、波佐小学校合同で開催したが、残念ながら波佐小学校の対象 1 名の児童の方が当日欠席となったため、実質今福小学校の 8 名が対象で実施をさせていただいた。午後は、雲城小学校の 17 名ということで実施した。

今回来られた講師の先生の情報に記載しているが、メインの夢先生は、寺崎直樹さんというキックボクサーの方である。それから、アシスタントの方がもう 1 人来られ、泊志穂さんという女性のサッカー選手の方、お 2 人が来られた。

4 番に教室の概要を載せているが、まず、前半約 30 分間、体育館で体を動かすゲームをして、これはアイスブレイクになるが、ここでいろいろなゲームの中でチームワークを重視したゲームを行った。後半は、教室に場所を移して、夢先生のトークの時間ということで、今までの経験の中から、夢を掴むまで、チャンピオンになれるまでのお話を披露いただいた。先生方からは、この約 2 時間、子どもがそういった時間でも変わっていく様子を感じ取れたという様な、非常に好意的な感想もいただいている。

これは、また来年度以降も継続して、行っていこうと思う。

パナソニック野球部による野球教室の開催について（資料 9）

続いて、資料 9 をご覧いただき、パナソニック野球部による野球教室の開催についてである。社会人野球で活躍されている

パナソニック野球部による野球教室が、11月23日に三隅中央公園野球場で開催された。この教室は、社会貢献活動の一環で行っておられ、県西部では、2回目の開催である。市内で活動する軟式野球スポーツ少年団を対象に行われた。詳しくは、下記に記載しているが、3番の来場選手は、羽田野選手、永江選手、植田選手という3名の方が来られた。参加は、市内スポーツ少年団4チーム26人の選手が参加をされた。当日、天候もあまりよくなくて寒い中だったが、社会人野球の第一線で活躍する、すごく体の大きい選手の皆さんと一緒に、楽しく練習を行った。

この事業だが、広島東洋カープの元監督の佐々岡真司さんから、浜田市野球連盟にご寄付をいただいております、その財源で実施をさせていただいた。ちなみに、この佐々岡真司さんも3月に、今度は浜田市の野球場で、野球教室をしていただく予定で調整をしているところである。

松井課長

第33回浜田ー益田間駅伝競走大会（しおかぜ駅伝）の結果（資料10）

続いて、資料10である。第33回浜田-益田間駅伝競走大会（しおかぜ駅伝）の結果を載せている。今回、参加チーム数34チームということで、本当は35チームだったが、当日棄権があり、34チームとなった。前回よりも1チーム増えている。

まず、上位チームの成績を載せているが、第1位が浜田Aチームであった。そして、表の下の5位のところには、浜田Bチームが入っている。

中段には、浜田市5チームの成績を載せている。浜田Aチームが第1位、浜田Bチームは第5位、金城が第11位、三隅が第19位、弥栄が第34位となっている。ちなみに、浜田AチームとBチームには、旭町出身の選手も含まれている。

個人・チーム優秀表彰だが、浜田市に該当する部分だけあげている。まず、将来活躍が期待される中高各男女1人ずつが選出されるホープ賞に高校男子の松崎悠生さんが選ばれている。それから、最優秀選手賞ということで、福濱駿さんが選ばれている。その下は、区間10位以内の浜田市チームの成績を載せている。今回、優勝したが、区間賞を取った選手が誰もいない状態での優勝ということで、非常に珍しい結果ではないかと思

岡田教育長
各委員

山本課長

う。逆に、総合力、チームワークで勝ち取った優勝かなとも思っている。

一昨日、市長への結果の報告会もあり、選手の皆さんから、来年は3連覇を目指して頑張りますという様な力強いお言葉もあったところである。この勢いで、来年もぜひ頑張っていたきたいと思っている。

説明は、以上である。

ただいまの説明について、ご質問等よろしいか。

特になし。

石見神楽伝承内容検討専門委員会からの提言書の提出について（資料 11）

それでは、資料 11 をご覧いただきたい。石見神楽伝承内容検討専門委員会からの提言書の提出についてご報告する。

去る 11 月 29 日に、石見神楽伝承検討専門委員会から市長、教育長に対して、提言書の提出があった。石見神楽伝承検討専門委員会については、島根県立大学の豊田准教授を会長に、この表にあるとおり、学識経験者や神楽団体、神楽産業従事者等 14 名のメンバーで構成されて、会議の方は、当初は 6 回の予定であったが、現在 7 回の会議を重ねて、提言書をまとめられた。

それでは、めくっていただき、提言書の方をご覧いただきたい。提言書については、まず、1 番目にはじめに、2 番目に現状と課題、3 番目に保存・伝承すべきもの、4 番目に提言、最後 5 番目に終わりにという構成で構成をされている。4 番目の提言については、重点的に取り組むべき項目として、5 つの項目について提言が出されている。1 つずつ簡単に説明すると、まず 2 ページ目、1 つ目に石見神楽団体の保存・伝承について述べている。伝統的な舞の文化を後世に引き継ぎ、石見神楽団体の保存・伝承に向け、行政と石見神楽団体を中心となり、取組を推進する必要があるとしている。具体的には、舞の文化財指定や、多くの演目を舞うことができる環境整備、後継者育成、石見神楽を支える風土の継承などが必要としている。

続いて、3 ページ目だが、2 つ目に、石見神楽関連産業、ものづくり技術の保存・継承について述べている。行政による伝統工芸品や技術の保護、石見神楽関連産業の維持・発展に向け

た取組の検討が必要であるとしている。具体的には、ものづくり技術を文化財指定や、持続するための助成金などの支援の検討、後継者育成支援策の検討などが必要であるとしている。

続いて、3つ目には、「石見神楽を創り出したまち浜田」としての情報発信について述べている。浜田の子どもたちがふるさとを象徴するものとして石見神楽を挙げ、誇りを持って説明できるようになるため、市民向けの情報発信が必要であるとしている。具体的には、幼少期から切れ目なく「知る」「学ぶ」「舞う」ことができる機会の創出や、フォトコンテストなどを広く市民等が関わる様な取組の実施、行政などによる石見神楽に関する情報を集約したホームページや SNS の充実などが必要であるとされている。

4つ目に、行政における調査研究について述べている。これは行政が中心となって、石見神楽関係者、有識者などと協力しながら、石見神楽の調査研究を行い、その価値や魅力をさらに明確なものにしていく必要があるとしている。具体的には、舞やものづくり技術の文化財指定及び歴史や社会的価値などの調査研究や、歴史的な石見神楽関係資料の収集・調査・保存・展示、専門職員の配置を含めた組織体制や拠点設置の検討などが必要としている。

最後5つ目に、石見神楽の保存・伝承を担う拠点施設について述べている。歴史的な石見神楽用具、資料の保存・展示や、石見神楽について学ぶことができ、浜田の石見神楽のすべてがわかる拠点施設の検討が必要であるとしている。具体的には、検討を具体化する場合は、石見神楽団体や関連産業従事者を中心とした検討組織を立ち上げるなど、その機能や運営体制について検討が必要であるとしている。

5の終わりにだが、その前段の要望である拠点施設の検討について、提言に盛り込むに至った経緯を述べるとともに、今後、市においてこの提言を踏まえ、石見神楽の保存・伝承に向けた計画を立案・具体化し、実行に移すことを要望すると最後に締めである。

この提言書の説明については、簡単だが以上である。

なお、今回の提言を踏まえて、今後、石見神楽の保存・伝承についての取組方針を市として検討して参りたいと考えている。

岡田教育長	ただいま説明があった提言書に関して、委員方からご意見などあれば伺いたいと思うが、いかがか。
各委員	特になし。
岡田教育長	ないようであれば、この提言書を受けて、これから具体的な政策を教育委員会としてできることも考えていきたいと思う。

4 その他

(1) その他

岡田教育長	事務局からその他何かあるか。
日ノ原係長	特になし。
岡田教育長	その他のところで、委員方からご報告や質問があればお願いする。
各委員	特になし。

次回定例会日程

定例会 1月27日（月）14時30分から 中央図書館2階多目的ホール

次々回定例会日程

定例会 2月20日（木）14時30分から 浜田市役所本庁4階講堂AB

15：50 終了